分科会の趣旨

子どもたちが、自らを律しつつ、自己を確立し、他人を思いやる心や感動する心をもつ豊かな人間性を備えた人として育ち、自分らしく主体的に生きていくことは、社会全体の願いである。このような豊かな人間性の育成を図る基盤として道徳教育や人権教育がある。

道徳教育の視点からは、自制心や規範意識の希薄化等の心の状況に関わる課題や、現実から逃避し、今の自分さえ良ければよいという利己的な考えに陥りがちな子どもの現状が課題として指摘されている。その背景には、子どもを取り巻く環境の変化、特に家庭や地域社会における教育力の低下等の状況や、いじめ・暴力行為・不登校等の子どもたちが安心して学べる環境に関わる問題がある。これからの道徳教育は、こうした課題やその背景を視野に入れ、子どもたちが夢や希望をもって未来を拓き、人間としてより良く生きようとする力が育成されるよう指導の一層の充実を図っていかなければならない。

また、人権教育の視点からは、子どもたちが人権尊重の理念についての正しい理解や実践する態度が十分身に付いていないことが指摘されている。加えて、教職員にも人権尊重の理念についての理解が不十分であることや指導方法が十分身に付いていない等の課題がある。こうした課題の解決のためには、子どもたちに人間と生命の価値を自覚し尊重することや、人と調和して共に生きること、人の痛みや思いに共感することなどを育む心に響く人権教育を教育活動全般の中で進めていくことが急務である。

本分科会では、校長のリーダーシップのもと、道徳教育や人権教育など心の教育にかかる教育実践を推進するとともに、家庭や地域等と連携・協働した取組を実現し、人間性豊かな日本人を育成するための教育課程の編成・実施・評価・改善について具体的方策を明らかにする。

リーダーシップの視点

(1) 新たな社会を生き抜く人権感覚の育成

未来を担う子どもたちにとって、人が生きていく上で必要な権利を知り、あらゆる差別を許さず、文化・価値観・個性の違いこそが豊かさにつながることに認識することは、人権感覚を育むためには重要なことである。そのためには、学級をはじめ学校生活全体の中で、子どもたち自身が互いに認め合い、豊かな人間関係を構築していくことが大切である。また、子どもたちの人権感覚は、学校だけでなく家庭や地域社会を通じて育まれることから、その連携と協働が不可欠である。

このような視点から、学校・地域の実態に即した、他人を思いやる心、生命や人権を尊重する心、正義感や公正さを重んじる心等、社会を生き抜くために必要な人権感覚を育むための校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

(2) 豊かな心を育成する教育課程の編成・実施・評価・改善

子どもたちに豊かな心を育成することについては、道徳教育として教育活動全体を通して行われることとなっている。ところが、道徳の時間以外の各教科等における道徳教育の実施は、必ずしも十分とは言えない。こうした現状を改善していくためには、子どもたちが、教育活動全体を通して、様々な人間関係を深められるようにするとともに、自己の生き方について考えを深めなければならない。また、他者、社会、自然・環境との豊かな関わりの中で生きるという実感や達成感を味わい、社会参画への意欲や態度を身に付けることができるよう道徳教育の一層の充実を図る必要がある。

このような視点から、家庭や地域との連携を図り、地域の多様な人々や自然・環境等との交流の場を確保し、豊かな関わりの中で人間性や社会性を育み、子どもの内面に根差す豊かな心を育成する教育課程の編成・実施・評価・改善のための校長の果たすべき役割と指導性を究明する。